

都市河川を活かしたまちづくり

1. はじめに

現在、都市河川は排水、洪水のための治水機能が重視され、水辺のもつ魅力が失われ、コンクリートに覆われた構造物へと代わっていった。さらに、その河川がもともと有していた河道の特性や自然環境は大きく変貌し、河川自身の力で回復不可能になってしまった河川は少なくない。よって、都市部に住む住民らは川に入って親しむことができなくなってしまった。現在、私が住んでいる福岡市の都市河川は下水道整備によって川がきれいになってきている。しかし、洪水対策のため川に入るところは限られてしまっている。そこで、私は、福岡市に水辺の空間を利用した魅力あるまちづくりを提案したい。



写真1 - 現在の都市河川

2. 福岡市の河川の問題

現在の福岡市を流れる都市河川には、様々な問題点がある。例えば、福岡市を流れる樋井川は清流のシンボルであるアユやシロウオが生息している。この事を知る住民は少ない。また、河川の下流域では、護岸がコンクリート化され、川へ入ることが難しい(写真-1)。また、通勤通学など人通りが多い樋井川にはたくさんのごみが散乱している。このように、私たちの生活の中で、一番身近な自然“川”に触れる環境が少なくなっており、人々が河川に興味を失っていることが現状である。この問題点を解決することにより、人々の心は豊かになり、すみやすいまちづくりが可能となるのではないだろうか。

3. 提案 ~ 激流下り ~

まず、提案として、楽しみながら、河川を堪能できるものが激流下りである(写真-2)。激流下りを都市河川で経験できることが、まちづくりの発展につながると考えた。この激流下りは、観光用はもちろんのこと、朝の通勤や下流域への交通手段の一つとして、活用したらどうだろうか。癒しもありながら、また楽しさ、興奮も味わうこともできる。交通手



写真-2 激流下り

段として使えるのであれば、天神などの渋滞緩和に対処できるのではないだろうか。そのうえ、自然力を移動であるので、環境への負荷がない事も利点の一つとしてあげられる。

また、その激流下りでの一番の魅力は興奮やスリルであるため、樋井川の短所である単調河川を、逆に、利用することにより、スリリングな

ものになると考えられる。しかも、堰などによる、障害物が多く存在するためかなりのスリルを楽しめるのではないかと考えた。(写真-3)。また、樋井川の下流域には yahoo ドームや、福岡タワーがあり、夜になると、イルミネーションが輝き、景色がとても素晴らしく、違う視点からの魅力が味わえるのではないかと考えた。(写真-4)。

次に、交通手段としての魅力は、他の交通手段と比べものにならないほどの時間の短縮であろう。福岡大学付近～ヤフードーム付近(約 4.5 km)をバスでは、約 40 分かかる。しかし、平均的な激流くだりの速度は、時速 20km/h であるため、20 分くらいで着く計算である。信号待ちでの排気ガスによる温暖化防止にも役立てることができて、様々な面で効率がよくなる。さらに、市街地や他の交通機関へのアクセスもたやすくなる。例えば、草香江新橋付近は地下鉄七隈線の六本松駅に近く、乗換えにも時間がかからない。また、中学校や高校の前、公民館の前など、人が多く集まる場所に係留地点を設けることで、あらゆる所にアクセスしやすくなり、交通手段がバス、地下鉄、自動車のほかにポートが一つ増える。よって、人々の移動範囲が広がり、今まで以上にまちは発展していくと考えた。

4. まとめ

日頃、都会の人々にとって関心のない河川を観光や交通手段にすることで、自然に少しは興味がわいてもらうことができると考えた。また、福岡は都心に河川が流れていることが自慢でありどうかこの河川をまちづくりに活かしたいと考えた。



写真-3 ポイント 1



写真-4 ポイント 2

